

平成 22・23・24 年度京都府小学校教育研究会 図画工作部 研究協力校

研 究 実 践 発 表 会

研究紀要

研究主題

豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び

～形や色の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～



平成24年10月19日(金)

京田辺市立普賢寺小学校

は じ め に

ここ普賢寺小学校では、豊かな自然が織りなす四季折々の変化や色彩を身体いっぱいに感じ取りながら、ともに伸びていこうとする子どもたちの元気な声が学校に満ちています。

さて、平成23年度より全面実施となった学習指導要領も、この4月より2年目に入り、「確かな学力」を基盤とした「生きる力」をはぐくむことがますます重要となってきました。

こうした中で、本校では平成22年度から京都府小学校教育研究会図画工作部の研究協力校として、研究主題の「豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び ～形や色の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～」の具現化を目指して3年間の研究を進めて参りました。

そしてこの度、これまでの研究のまとめを行う機会を得、皆様方に発表できますことは誠に喜びにたえません。拙い実践ではありますが、皆様方のご指導、ご助言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、実際に研究を進めるにあたっては、1年目から遅々として研究が進まない時期が続きました。それは、研究主題へ到達するまでの具体的な取組が見えなかったからです。子どもたちのイメージを大切にするというよりは、まだまだ「こういう作品を子どもたちに作らせたい」という教師のイメージが先行していたようです。その結果、実際の授業では子どもたちがひとつひとつ作業を終えるごとに、「先生、これでいいですか？」と確認する場面も見られました。

そこでもう一度、学習指導要領に示された目標と内容、新たに付け加えられた内容等を確認しながら、理解を深めていく中で、少しずつではありますが、研究主題にせまる具体的な取組が見えてきました。それは、「子どもたちが自分の作品に対する思いをしっかりと持って表現活動に取り組む授業作り」であり、「先生、これでいいですか？」からの脱却でもありました。

研究も3年目をむかえ、教師の授業にかける熱い眼差しの中で、これからも子どもたちが自らのイメージに向かって活動する教育実践を進めるとともに、この研究がさらに学校の教育力や組織力を高め、本校が地域に信頼される魅力ある学校となるように励んで参りたいと考えております。

本校の研究推進にあたり、京都教育大学教授村田利裕先生、元京都教育大学非常勤講師蘆田照代先生、京都府総合教育センター北部研修所研究主事兼指導主事高橋淳夫先生には、何度もご来校頂きご指導・ご助言を賜りました。心より感謝申し上げます。

後になりましたが、教育・研究活動全般にわたりご指導・ご支援を賜りました京都府教育委員会、京都府山城教育局、並びに京田辺市教育委員会をはじめ、各関係の皆様方に心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成24年10月19日

京田辺市立普賢寺小学校

校長 廣 見 薫

目 次

は じ め に	1
第 1 章 学校の概要	4
1 本校の概要	4
2 児童の実態	4
3 教育方針	4
4 児童数（平成 2 4 年 9 月 1 日現在）	4
第 2 章 研究の概要	5
1 研究主題	5
2 主題設定の理由	5
3 研究構想	7
4 研究課題	8
5 研究仮説	8
6 研究組織	8
7 研究計画の構想	9
8 これまでの研究活動	9
第 3 章 研究内容	15
1 研修計画部	15
2 環境充実部	17
3 授業研究部	18
第 4 章 研究の成果と課題	27
1 研究主題へのアプローチ	27
2 成果と課題	34
おわりに	34

第1章 学校の概要

1 本校の概要

本校は京都府南部京田辺市の南西部に位置し、校区は大阪府枚方市、奈良県生駒市、京都府相楽郡精華町に隣接し、京田辺市全体の面積の4分の1を占めている。校区一帯が、四季の変化を体感できる豊かな自然環境にある。また、歴史的にも筒城宮跡や祇園祭と関連のある朱智神社や国宝十一面観音立像が祀られている大御堂観音寺等の多くの史跡が残されており、古くから文化の開けたところである。

本校は明治6年10月6日、水取小学校として開校し、昭和22年に普賢寺小学校と改称した。今年で創立139年の歴史ある学校である。

各学年単級の1クラス10名前後、全校児童数74名の小規模校である。平成19年度より京田辺市内全域からの入学や転校を認める小規模特認校制度を実施している。

今回京都府小学校教育研究会図画工作部研究協力校として、平成22年度から3年間、新学習指導要領に基づいた図画工作科の研究を進めてきた。

2 児童の実態

素直な気持ちや思いやりの心を持った児童が多く、どの学年も男女仲良く学校生活を送っている。

学校行事は、異年齢集団の活動を取り入れているので、上級生が下級生の面倒をよく見るなど、助け合ったり、協力し合ったりする姿が見られる。

人間関係においては、自分の思いをはっきりと出したり、話し合ったり、きちんと伝えたりすることが苦手な児童もいるので、学習や生活を通して、自己表現力と他者受容力を育て、豊かにたくましく生きる力をはぐくんでいきたい。

3 教育方針

【学校教育目標】

確かな学力と豊かな心を持ち、心身共にたくましい普賢寺っ子の育成

めざす児童像

自ら学び考える子(知)＜展望する力＞	}	豊かにたくましく生きる力
仲よく協力する子(徳)＜つながる力＞		
明るく元気な子(体)＜挑戦する力＞		

4 児童数(平成24年9月1日現在)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	4	4	6	9	9	5	37
女子	5	11	2	8	4	7	37
計	9	15	8	17	13	12	74

第2章 研究の概要

1 研究主題

豊かな感性・つくりだす喜び・確かな学び

～形や色の特徴をとらえ、自らのイメージを表現する児童の育成～

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態 〈図画工作意識調査から〉

児童のほとんどが図画工作科の時間は「楽しい」と考えていた。その理由を尋ねると、「工作とか絵が得意だから」「絵とか物を作ることが好きだし、それを実際にするというのが楽しいから」「色を混ぜたり、工夫してやったりするのがおもしろいから」と答えている。このことから、図工は好きであることが分かった。

しかし、2名が「どちらかと言えば楽しくない」と感じていた。その理由に、「絵が苦手である」と答えていた。想像して描くことに苦心している。

さらに、今までの授業の印象を聞いてみると、低学年では造形遊び、高学年では写生や版画、クラフトなどが印象に残っていると答えている。学年が上がるにつれ、じっくり構想を立て、時間をかけて丁寧に仕上げた経験を、楽しいと感じているようだ。

また、身の回りの自然や生活の中で、美しいなあと感じたことは何かを聞いてみると、景色や自然現象が多く、また見えることだけでなく音や匂いにも美しさを感じると答えていた。

次に、遊びや生活の中で、どのような道具を、どれぐらいの児童が経験しているのか調査してみると、はさみやカッターナイフについては、多くの児童が経験していることが分かった。また、学年が上がるにつれて、使う用具や材料の種類が増えていた。金槌や釘、のこぎり、糸や針などは、図画工作科の授業や夏休みの作品制作、「ふるさと体験学習」の活動などで経験していることも分かった。

素直な気持ちや思いやりの心を持って育っているが、思ってもなかなか声に出せない、きちんと伝えることが苦手という本校の児童にとって、好きな図画工作科の活動で、集中力や表現力、伝える力、豊かな情操を養うことは、大変意味のあることであり、「自ら学び考える子」の育成につながる。また、培った力はこれからの生活の中に生かされるであろう。

(2) 図画工作科の指導の現状から

子どもが、「先生これでいいですか」と何度も描いては了解を得にくる。その作品に、「ここは、もう少しこうしたら」などと指導する。教師のイメージにかなったときを、作品の「完成」としてはいない。このようなことから、子どもが「自分のイメージを持つ」ことや、「ゴール(作品の仕上がり)は自分で決める」ことを大切にしたい指導を考えた。

イメージを広げるために、遊びで技法を楽しむ、学習活動の場の設定を工夫する、友だちの作品をみる(目で見ると、心でみる・感じる)、鑑賞を意図的に仕組むなど、図画工作科の授業改善を図りたい。

また、表現活動や鑑賞活動において、感じ取ったことを話す・聞く・話し合うなどの活動を通して、言語活動の充実を大事にしたいと考えた。

(3) 学習指導要領の改訂の視点から

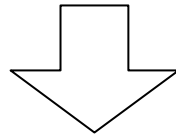
平成23年度からの新学習指導要領全面実施を受けて、図画工作科の目標などを踏まえ、改訂のキーワードとなる「感性」、「喜び」、「能力」を意識して主題を設定した。

教育課程改善ハンドブック(京都府教育委員会)より

表現及び鑑賞の活動を通して、

- ① (児童が)感性を働かせること (今回の改訂で追加)
- ② (児童が)つくりだす喜びを味わうようにすること
- ③ (児童の)造形的な創造活動の基礎的な能力を培うこと

} → 豊かな情操を養う。



活動を通して、「

感性

喜び

能力

を」がキーワード

※1

※2

※1 「感性」…児童の感覚や感じ方、表現の思いなど (対象を能動的に感じ取る心の働き)

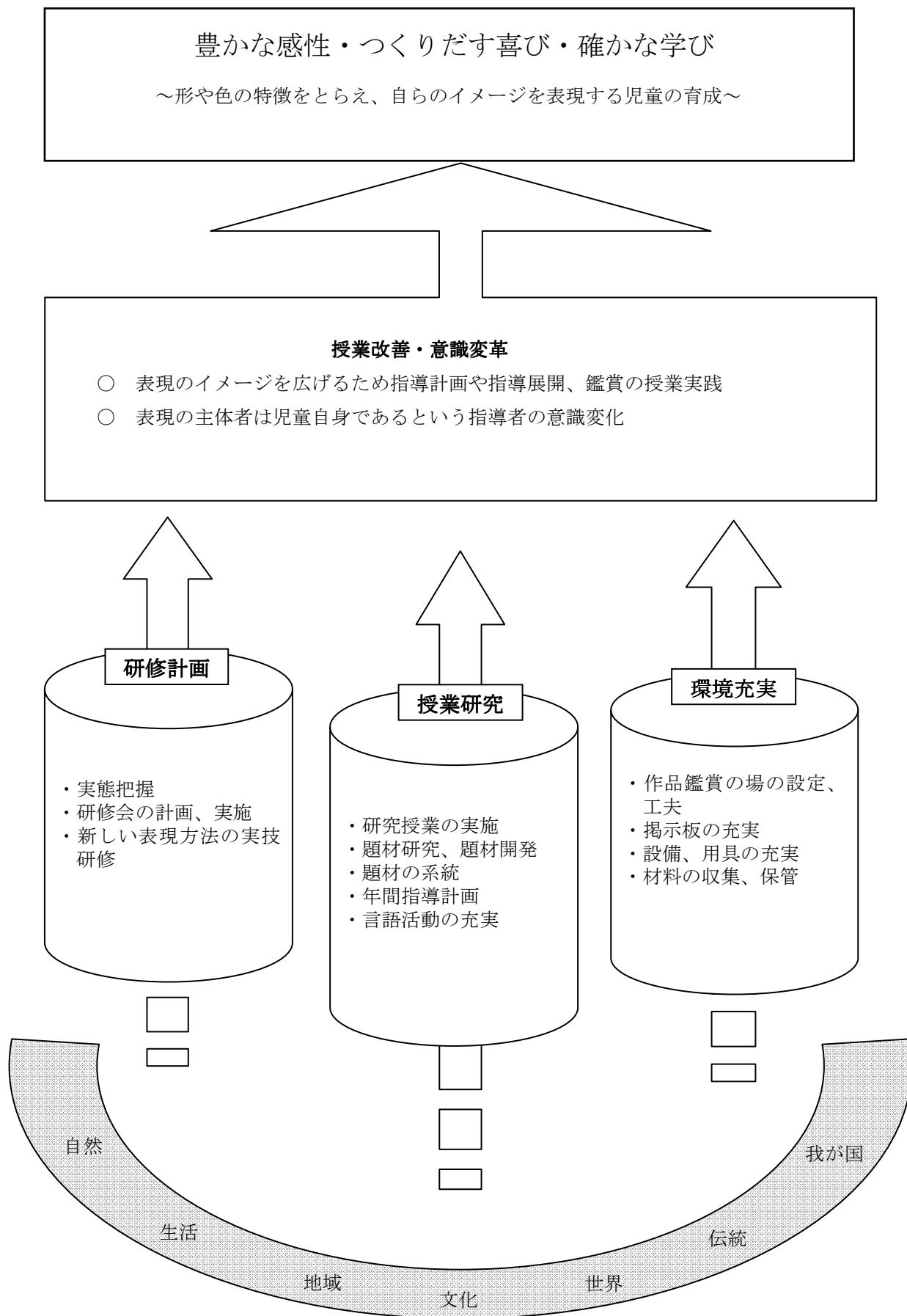
※2 「能力」…発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力

共通事項…表現・鑑賞で共通に働く造形活動の要素を新設

ア) 自分の感覚や活動を通して、形や色の特徴をとらえること

イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

3 研究構想



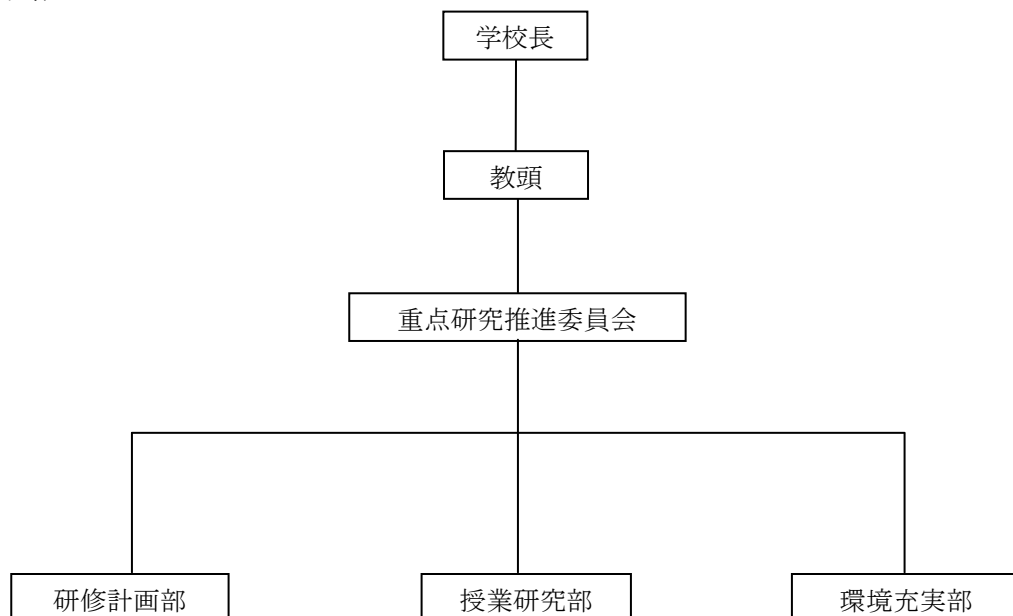
4 研究課題

- (1) 表現の思いを広げたり考えを深めたりして、自らのイメージを表現する児童を育てるための指導改善を図る。
- (2) 共に学び、イメージを相互に深めるための指導場面や環境の工夫を図る。
- (3) 新学習指導要領の改訂の趣旨を理解するとともに、改訂の内容にともなって我が国の美術や文化に関する指導、鑑賞教育、新しい表現方法などの研修を行う。
- (4) 児童の感性を高めるための環境の充実を図る。

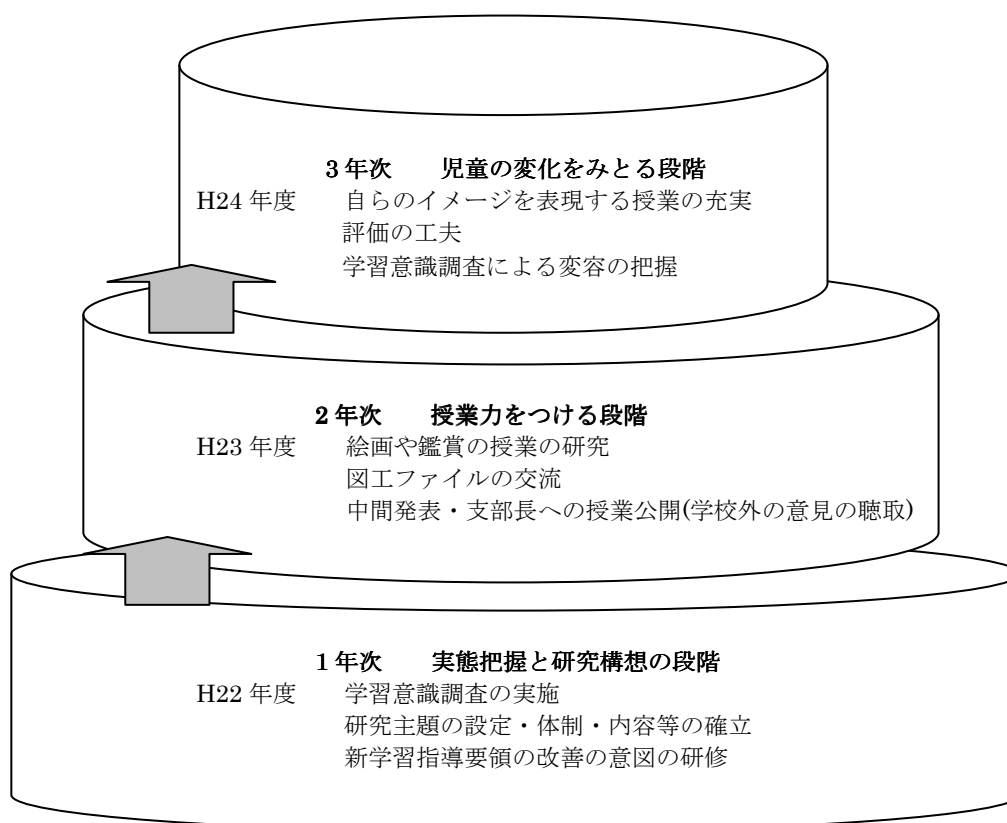
5 研究仮説

- (1) 題材の選択や、題材の指導計画の工夫、表現のイメージを引き出す学習展開を進める中で、自らのイメージを持つことができるのではないかと。(個が深まる)
- (2) 友だちと交流し学び合う場面を工夫すればイメージの世界を広げ深めることができるのではないかと。(自他が高まる)
- (3) 講師を招聘し、理論研究や実技研修を通して、指導者が新しい題材や未経験の技法を研修することにより、児童は表現の楽しさ面白さを味わい、意欲的に活動する姿が見られるのではないかと。
- (4) 掲示板や廊下等を活用することで、それぞれが自分の感覚を働かせ、形や色、イメージを手掛かりに表現のよさや美しさを感じる場となるのではないだろうか。

6 研究組織



7 研究計画の構想



8 これまでの研究活動

【平成22年度】

月	日	曜日	内容	
4	6	火	重点推進	児童に付けたい力、研究テーマ、研修、組織、計画等
	14	水	全体会	図画工作科における児童の実態、研究テーマ、研究課題等協議
5	14	金	重点推進	研究テーマの設定、研究授業の計画、研修計画等立案
6	2	水	全体会	総合教育センター出前講座① 「新学習指導要領の意図と改善点」 講師 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	11	金	重点推進	研究テーマの討議
	16	水	研究授業	1年「はこ ハコ はこ」の授業と事後研究会
	21	月	重点推進	夏の研修計画立案
7	5	月	重点推進	夏の研修の日時・内容・講師等決定
	20	火	全体会	夏の研修、実践レポート、新指の改善を受け年間指導計画の作成

8	22	日	重点推進	研修の事前打ち合わせ
	25	水	校内研修会	理論と実技「笑顔と感動は原動力だ」 講師 芦屋市立宮川小学校教諭 秋山道弘先生
	26	木	校内研修会	実技講習「スチレン版画」「ほり進み版」 講師 京都教育大学非常勤講師 蘆田照代先生 1学期の実践交流
9	6	月	重点推進	研究主題の設定の理由、内容等の決定に向けて 事前討議、研究授業の変更の事前協議
	8	水	全体会	研究テーマ決定、これからの研究授業の計画決定
10	4	月	重点推進	年間指導計画の領域のバランスの検討、図画工作科の学力の系統の 見直しについて打ち合わせ
	20	水	事前研究会	5年「うつつて見つけた わたしの世界」の事前研究会
	27	水	研究授業	5年「うつつて見つけた わたしの世界」の授業と事後研究会 3年「クミクミックス」の事前研究会
11	24	水	研究授業	3年「クミクミックス」の授業と事後研究会
12	1	水	研究授業	6年「動くよ動く絵が動く ～デジタルカメラで～」の授業と事後研究会 総合教育センター出前講座② 「新学習指導要領の趣旨を生かした授業の創造」 講師 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	22	水	全体会	年間指導計画の手直し、「研究授業を終えて」の作成
1	7	金	重点推進	3学期の計画立案
	12	水	事前研究会	4年「きってワクワク めくるんるん」の事前研究会
	13	木	事前研究会	4年材料の木切れ準備
	18	火	研究授業	4年「ギコギコ、コロコロ、たのしいなかま」の授業
	19	水	事後研究会 事前研究会	4年の事後研究会・2年生の事前研究会
	26	水	研究授業	2年「きってワクワク めくるんるん」の授業と事後研究会 研究のまとめの評価について提案
2	14	月	重点推進	研究の成果と課題、方向性について事前討議
	23	水	全体会	1年次の研究のまとめと23年度の方向性の協議
3	2	水	校内研修会	「小学校における鑑賞学習」 講師 佛教大学講師 竹内晋平先生
	9	水	全体会	研究紀要の綴じ

【平成23年度】

月	日	曜日	内容	
4	3	月	全体会	中間発表の日時確認
	18	火	重点推進	研究テーマ、研究構想、研究体制、1学期の計画の検討
	20	木	全体会	研究テーマ、研究構想、研究体制、1学期の計画の決定
	28	金	全体会	研究の領域や図工ファイル、児童の意識調査の実施について
5	9	月	全体会	普賢寺小年間カリキュラムと系統一覧表作り
	18	水	全体会	研究テーマ等の決定、本年度の研究授業の日時決定
	25	水	三部会	目標、内容、計画の検討
6	1	水	全体会	三部会の目標、内容、計画の決定 中間発表の日時について再検討
	13	月	事前研究会	5年研究授業について
	15	水	研究授業 事前研究会	5年「タワーをたてよう」の授業と事後研究会 6年研究授業について 指導・助言 京都教育大学教授 村田利裕先生 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	17	金	全体会	季節の掲示「あじさいの花」について環境充実部の提案
	22	水	研究授業 事前研究会	6年「墨から感じる形や色」の授業と事後研究会 2年の研究授業について 指導・助言 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	29	水	研究授業 事前研究会	2年「とうめいくんの大へんしん」の授業と事後研究会 指導・助言 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生 4年鑑賞授業のプロローグ
7	20	水	全体会	夏季校内研修について研修計画部の提案
	30	土	校外研修会	京都近代美術館「鑑賞教育の取組」について 講師 学芸課長 山野英嗣先生
8	17	水	個別研修	小学校図画工作科教育講座(大学連携講座) 「鑑賞と表現」演習
	21	日	環境充実部会	教室前掲示板設営 季節の掲示の計画
	25	木	校内研修会	「図画工作科で育てたい子どもの資質・能力 ～鑑賞教育の指導法から～」 講師 京都教育大学教授 村田利裕先生

	26	金	校内研修会	「図画工作科で育てる力」 講師 ノートルダム女子大学准教授 藤本陽三先生
9	14	水	全体会	季節の掲示「ゴッホのカーテン」について環境充実部の提案
	21	水	事前研究会 重点推進	4年の研究授業について 中間発表の内容検討
	28	水	研究授業 重点推進	4年「これも顔に見えるよ」の授業と事後研究会 中間発表の内容検討
10	5	水	重点推進	中間発表の内容検討
	7	金	校外研修会	お話の絵指導者講座
	19	水	全体会 事前研究会	中間発表の確認 1年の研究授業について
	26	水	公開授業 研究授業	京都府小学校教育研究会図画工作部支部長会へ 授業公開 1年「かげをうつして」の授業と事後研究会 指導・助言 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
11	2	水	事前研究会	3年の研究授業について 指導・助言 京都教育大学教授 村田利裕先生
	7	月	全体会	季節の掲示「いちょうとかえで」について環境充実部の提案
	16	水	研究授業	3年「あのときをわすれない」の授業と事後研究会 指導・助言 京都教育大学教授 村田利裕先生 京都教育大学非常勤講師 蘆田照代先生 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	18	金	重点推進	部会の内容計画、研究紀要の冊子の概要
	21	月	三部会	本年度の取組、成果、課題、方向性のまとめ
	25	金	低・高学年別 部会	2年、6年の題材決定及び指導計画について検討
12	5	月	拡大重点推進	部会を受けて研究紀要の項目決定
	22	木	全体会 高学年部会	各部のまとめ、冬季休業中の各部・各学年の作業について 6年「願いや思いを形や色に…」の指導案検討
	26	月	低学年部会	2年「まどをひらいて」の指導案検討
	27	火	低学年部会	2年の指導案検討
1	10	火	低・高学年別 部会	2年、6年の指導案検討
	11	水	全体会	季節の掲示「雪の結晶」について環境充実部の提案
	13	金	全体会	2年、6年の指導案確認

	16	月	三部会	各部のまとめと研究紀要の原稿作り
	18	水	全体会	研究紀要・指導案の確認
	20	金	全体会	研究紀要・指導案の綴じ
	23	月	全体会	児童作品の掲示及び環境整備
	25	水	授業研究会	指導案細案の検討 指導・助言 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	27	金	全体会	2年「まどをひらいて」6年「願いや思いを形や色に」の模擬授業
	30	月	全体会	「研究の概要」発表リハーサル
	1	水	全体会	前日準備
2	2	木	研究発表 分科会	「キ・ラ・ラげんきっ子教育実践校」実践発表及び「図画工作科研究協力校」中間発表 2年「まどをひらいて」 6年「願いや思いを形や色に…」 指導・助言 京都教育大学教授 村田利裕先生 京都教育大学非常勤講師 蘆田照代先生 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	21	火	重点推進	研究のまとめの検討
	22	水	全体会	研究のまとめ及び24年度の方角性 季節の掲示「水仙」について環境充実部の提案
	28	火	全体会	確認事項伝達
3	23	金	全体会	研究紀要別冊綴じ

【平成24年度】

月	日	曜日	内容	
4	9	月	重点推進	研究主題等、研究体制、1学期の計画、本大会発表の内容計画
	11	水	全体会	研究テーマ、研究構想、研究体制、1学期の計画について討議
	19	木	環境充実部	活動目標、内容等の計画
	25	水	授業研究部	活動目標、内容等の計画
5	1	火	役員会	大会の事前打ち合わせ
	2	水	全体会	1学期の計画について各部提案
	8	火	環境充実部	季節の掲示「鯉のぼり」
	21	月	事前研究会	3年「こんなことがあったら」の指導案検討

	24	木	環境充実部	季節の掲示「花菖蒲」
	30	水	研究授業 事後研究会	3年「こんなことがあったら」 指導・助言 京都教育大学教授 村田利裕先生 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
6	5	火	環境充実部	季節の掲示「あじさいとかたつむり」
	7	木	環境充実部	図工室の備品、環境整備
	20	水	全体会	本発表での本校の役割分担、授業学年の調整
	27	水	事前研究会	1年「まほうのとびらをあけると」の模擬授業
7	2	月	重点推進	夏休みの研修計画(内容や講師について)
	4	水	研究授業 事後研究会	1年「まほうのとびらをあけると」 指導・助言 京都教育大学教授 村田利裕先生 京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	11	水	環境充実部	季節の掲示「ひまわり」
	20	金	重点推進	研究紀要、指導案のタイムスケジュール、実技研の準備(1回目)
	23	月	重点推進	研究紀要、指導案のタイムスケジュール、実技研の準備(2回目)
	24	火	低・中・高学年 別部会	本発表の授業事前研究
	25	水	重点推進	研究紀要の内容について
	30	月	校内研修会	実技研修「新学習指導要領と墨アート」 講師 墨アートプロジェクト 松崎としよ先生 山口佳子先生
8	1	水	校内研修会	これまでの成果と課題のまとめ(KJ法) 第1回 事前研究 2・4・6年
	19	日	重点推進	研究紀要の冊子作りについて
	22	水	校内研修会	第2回 事前研究2年 研究紀要の検討
	23	木	校内研修会	第3回 事前研究4・6年
9	5	水	全体会	図画工作科教育研究大会までの活動の打ち合わせ 第4回 事前研究2・6年

第3章 研究内容

1 研修計画部

(1) 目標

- ・新学習指導要領の改訂の趣旨を理解する。また改訂の内容にもとまって我が国の美術や文化に関する指導、鑑賞教育、新しい表現方法などの研修を行う。

(2) 取組内容

年度	月	内容
22	6	総合教育センター出前講座「新学習指導要領の意図と改善点」 京都府総合教育センター北部研修所研究主事兼指導主事 高橋淳夫先生
	8	理論と実技講習「笑顔と感動は原動力だ」 兵庫県芦屋市立宮川小学校教諭 秋山道弘先生
	8	実技講習「スチレン版画」「ほり進み版」 京都教育大学非常勤講師 蘆田照代先生
	3	「小学校における鑑賞学習」 佛教大学講師 竹内晋平先生
23	7	「鑑賞教育の取組」——京都近代美術館にて—— 京都国立近代美術館学芸課長 山野英嗣先生
	8	小学校図画工作科教育講座・大学連携講座「鑑賞と表現」演習 個別研修
	8	「図画工作科で育てたい子どもの資質・能力」～鑑賞教育の指導法から～ 京都教育大学教授 村田利裕先生
	8	「図画工作科で育てる力」 ノートルダム女子大学准教授 藤本陽三先生
	2	京田辺市教育委員会指定「キ・ラ・ラげんきっ子教育実践校」の実践発表並びに京都府小学校教育研究会図画工作部「研究協力校」中間発表
24	7	実技研修「学習指導要領と墨アート」 墨アートプロジェクト 松崎としよ先生 山口佳子先生



新学習指導要領の
意図と改善点



笑顔と感動は
表現の原動力だ

小学校における
鑑賞学習



図画工作科で育てたい
子どもの資質・能力



スチレン版画と
ほり進み版



図画工作科で
育てる力



学習指導要領と
墨アート



スチレン版画



ほり進み版



2 環境充実部

(1) 目標

- ・ 児童の感性を高めるための環境の充実を図る。

(2) 取組内容

- ・ 季節の掲示板…児童一人一人が葉っぱや花びらを作って一つの作品にまとめて掲示した。

春



花しようぶ



こいのぼり

夏



あじさい



ひまわり

秋



ゴーヤのカーテン



いちようとかえで

冬



雪の結晶



すいせん